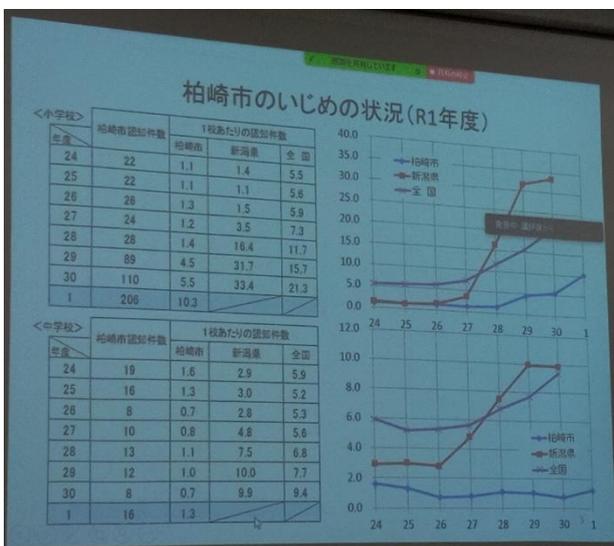
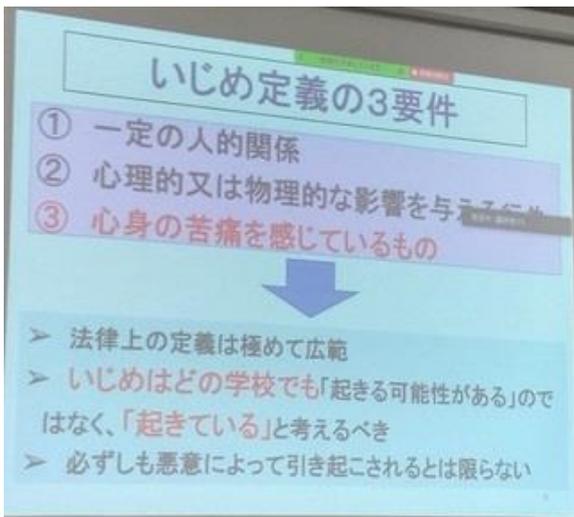
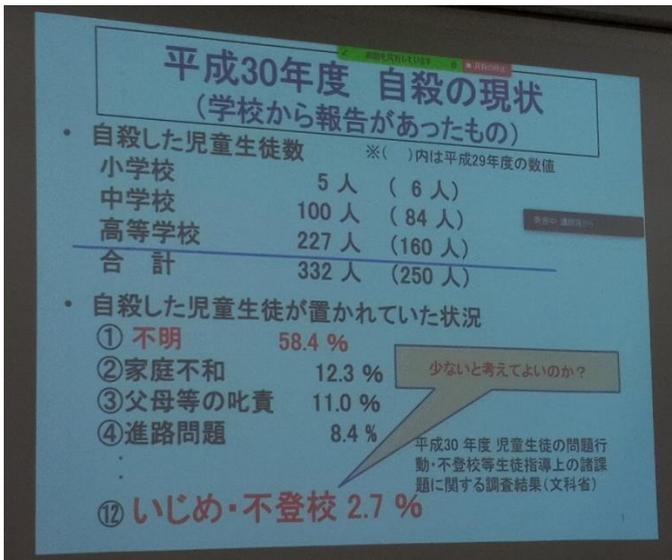


1 現場における現状



## 不登校

何らかの心理的、情緒的、<sup>身体的</sup> 身体的あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者  
 (ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く。)

## R2.12 市内不登校の現状

令和2年度 長期欠席児童生徒報告書

	令和2年度			令和元年度		
	小	中	合計	小	中	計
現在の不登校数	8	52	60	21	51	72
(内訳)新たな不登校	4	21	25	10	22	32

	前年度				今年度				増減			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
	5日以上欠席	2	0	26	11	4	0	22	12	-1	0	2
10日以上欠席	3	0	19	10	4	0	14	8	-1	0	5	-2
20日以上欠席	2	0	12	6	2	0	11	2	0	0	1	-1
30日以上欠席	1	0	8	3	2	0	8	3	-1	0	1	-2
全欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	前年度				今年度				増減			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
	5日以上欠席	9	0	73	2	5	0	59	3	4	0	17
10日以上欠席	9	0	64	3	3	0	50	3	8	0	14	0
20日以上欠席	8	0	59	3	3	0	44	2	5	0	15	1
30日以上欠席	8	0	52	2	3	0	34	2	3	0	18	0
全欠席	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Cが不登校。12月現在20日以上欠席者が小中ともこれだけ多いと、年度末には昨年度を大きく上回る不登校児童生徒数になると思われる。

ある学校のあるクラスに不登校児が固まっているところがある。

## 2 ゲートキーパー講座

○国内の自殺者数が10年連続で減少する中（10万人あたりの自殺率も低下）、児童生徒の自殺は増加傾向にある。

○死にたいと思ったことがある生徒・・・中学生30.4% 高校生32.1%

○ゲートキーパーは、悩んでいる人の生きる力を支援する人。

○自殺の危険因子

- ・過去の自殺未遂の経験・・・1年以内の方が危険が高い

- ・自傷行為（リストカット、過量服薬など）…生きるためにするものだが、死に対するハードルが下がっていることでもある。
- ・精神障害（うつ病など）…若い人のうつ病は成人とは異なる。学校に行くがイラついているとか。
- ・性的マイノリティ
- ・学校生活の問題（学業、進路の悩み、いじめ、孤立など）…学業関係は男子が多い。いじめの加害の人も心配、自己有用感が低いから。
- ・家庭内葛藤、被虐待経験、貧困
- ・親しい人の自殺（喪失体験）
- ・（思春期・成年期までは特に）人前での恥や屈辱感…最近の子どもには顕著。

これらのうち2～3重なった場合、自殺の確率が高まる。1つでもその人にとって重要であれば危険度は高い。

#### ○自殺の対人関係理論

「自分の居場所のなさ（所属感の減弱）」「他者に迷惑をかけている感覚（負担感の知覚、自分がいない方が周りの人が幸せなのではないかと思う）」の2つの感覚が重なった時、自殺願望が生じる。

これに「痛みへの慣れ、死を凝視できる力、死に対するハードルの低さ（獲得された自殺潜在能力）」が重なった場合、致死的もしくは重篤な自殺企図になる。

#### ○自殺前のサイン（直前かもしれないし、半年前かもしれない）

子どもは悩む器も小さく、悩む力が弱いから、体や行動で表現することになる。

- ・自殺の意図を表出…自殺に関する言葉（ほのめかし）、道具の準備（ロープ、薬、ネクタイ）、別れの用意（整理整頓、大切なものを他者にあげる）
- ・自分の健康や安全を守れない状態…投げやりな態度（わがまま、暴言、反発）、けがを繰り返す、家出や放浪→困っている人間はわがままになる。他者に迷惑をかけるのも困っている場合のサイン。
- ・行動、性格、身なりの突然の変化…関心のあったものへの興味を失う、急に口数が減って妙に落ち着く

#### ○自殺に関する言葉

心理的に視野が狭くなっているのであり、悩んだ結果そこに至った言葉であり、本人が選んだわけではない。

#### ○ゲートキーパーはどのような聞き方をしたらいいか、聞き方の基本（TALKの原則）

- ・Tell…言葉に出して心配していることを伝える。心配する主語は「私」にする。言葉に出してはっきり伝える。
- ・Ask…質問する。死にたい気持ちについて率直に尋ねる。「死にたいくらいつらいの？」「自殺まで考えているの？」私にはそれを話してもいいんだよ、というメッセージになる。
- ・Listen…絶望的な気持ちを傾聴する。そう思わざるを得ない状況を理解しようとする。否定しない、説得しない、気づかせようとしない。
- ・Keep safe…安全を確保する。危険と判断したら一人にしないで、他からも適切な援助が求められるようにする。

#### ○「死にたい」と言ってもらうためにはどうしたらいいか

- ・Tell…「困ったことがあったらいつでも相談してね」「何か話してみようかと思うことがあれば聞くよ」「あなたのことが心配だよ」
- ・Ask…「同じ悩みを持つ人の中には「生きているのがつらい」と思う人もいるけどあなたはそう思う

ことある?」「それって自殺とか考えているの?」→Yes か No で答えられるものにする。質問しなければ見逃すことがある。

・ Listen…本人が心の準備をする時間をつくる。「話しにくいことだよね」「どう言ったらいいかわからないよね」

・「死にたい」と言われたら、「死ぬほどつらい」に言い換えてみる。

#### ○望ましくない対応

相談者として自分の不安を減らすために言いがちな言葉。説得しようとする人は反発する。

・ 教えを説く…「人生にはそういう時もある」「親の気持ちを考えて」

・ とがめる…「そんなこと言わず前向きに考えよう」「命を大切に」「どうして自殺を考えるの」

・ 過小評価、安易な励まし…「死ぬほどの問題じゃない」「そこまでじゃない」「大丈夫」「そのうちどうにかなる」

・ すぐに解決策を出そうとする

#### ○死にたいほどのつらさを聞く

・ Tell…告白、信用してくれたことに感謝する（静かで穏やかな態度を維持）。「話してくれてありがとう」「よく話してくれたね」

・ Ask…問題となっていることについて聞く。死にたい理由について質問する。「どんなことがあったのか教えて」「どう思ったの?」「どうなったらいいかな?」

質問されることは自分に興味があるんだなと思う。「どうして」「なぜ」は×、「なに」は○。

・ Listen…感情を伝え返す。「つらかったね」「価値がないって思うんだね」「苦しくて逃げだしたいんだね」「限界なんだね」「そんな大変な思いをしたのによく頑張ってきたね」

・ Listen…理解した部分を伝え返す。「そんなことがあってつらい思いをしたんだね」「一生懸命やってきたけど状況が変わらなくてどうしていいかわからなくなっているんだね」

・ Keep safe…ほっておけないことを伝える。「あなたが心配だから、これだけつらい思いをしていることを私から保護者へ話してもいいかな」

相手の名前を言うようにする。24時間対応する窓口の番号を教えてもいい。

#### ○「誰にも言わないで」の理由

言われることよりも言われた後の反応が心配。関心を引くための口実と思われると傷つく。

#### ○「誰にも言わないで」と言われた時の対応

・ 分かってほしいという気持ちがある。

・ どんな親でも子どもの命については知る権利がある。

・ 「わかった」などの約束はしない。→気持ちが受け止めるが要求は受け入れない。

・ 誠心誠意粘り強く説明する。説得ではない。

・ 虐待や保護者の精神状態が不安定な場合は伝えない方がいい。

・ 親には言わないで、という子どもほど親には言うべき。親子関係が望ましくない場合が多いので、その調整をすることが必要。

#### ○保護者連携の在り方

・ 保護者の気持ちを大切にすることが第一。

・ 事実を正確に伝えることは必要。

・ 高校生くらいなら本人の同意があるなら同席でもいい。

・ 親から「どうしたほうがいいですか」と言われても回答は言わない。「その気持ちが分かります。どう

したらいいでしょうかねえ。一緒に考えましょう」

- ・帰った後の本人との関係が大切。確認する。
- ・親自身が救われたいと思っている家庭もある。親の困り感にも触れていく。
- ・親の責任という言葉は使わない。一緒に考えていく、継続していく。